

令和元年度

両川小学校の教育

— 前期 学校評価 —

新潟市立両川小学校

2019年 9 月 20 日

学力の向上

児童・保護者アンケートの結果

4 とてもよくあてはまる 3 まあまああてはまる 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

児童アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
将来の夢やつきたい仕事があります。	81人	25人	7人	3人
	91.2 %		8.8 %	
学校での学習はよくわかります。	67人	47人	2人	0人
	98.2 %		1.8 %	
友達や先生のお話を、最後まで口を閉じて聴いています。	48人	50人	14人	4人
	84.5 %		15.5 %	
「10分×学年」の家庭学習を、ほとんど毎日やっています。	52人	46人	10人	8人
	84.1 %		15.9 %	
いつもの授業では、学習課題が黒板に書いてあります。	94人	19人	3人	0人
	97.7 %		2.3 %	
いつもの授業では、自分の考えを発表する機会があります。	63人	31人	18人	3人
	81.7 %		18.3 %	
いつもの授業では、友達同士で話し合う活動をおこなっています。	60人	44人	11人	1人
	89.5 %		10.5 %	
授業でわからないことがあったとき、自分で調べたり先生や友達に聞いたりしています。	56人	43人	14人	4人
	84.6 %		15.4 %	

保護者アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
学校での学習を、理解していると思います。	20人	84人	8人	1人
	92.1 %		7.9 %	
学校での学習に、意欲的に取り組んでいると思います。	35人	58人	19人	1人
	82.3 %		17.7 %	
家では「10分×学年」以上の家庭学習を、毎日やっています。	42人	45人	18人	8人
	77.0 %		23.0 %	
お子さんの宿題プリントや自主学習ノートを、確認しています。	54人	32人	22人	6人
	75.7 %		24.3 %	
お子さんには「なれるとうれしい仕事」や「やってみたい仕事」があると思います。	47人	50人	13人	3人
	85.6 %		13.5 %	

肯定的な評価が多く、約半数が90%台でした。日々の学習活動の一つ一つが、成果に結び付いていることがうかがえました。

これから、さらに両川小学校の子どもに「学ぶ力」をつけるためには、「授業で分かった・できたと見える」授業づくりが重要だと考えます。両川小中合同で取り組んでいる「聴くスキル」の指導を土台に、児童一人一人が安心して学習に取り組めるように、きめ細かい指導を継続していきます。

また、家庭学習の習慣についても、定着してきた姿が見られます。昨年度の数値と比較してみると、「宿題以外に自主的に勉強していますか？」という項目では、昨年度は肯定的な回答が65.9%だったのに対して、今年度は77.0%という結果でした。市の平均79%まで2ポイント差です。

さらに、全校児童が「学校から帰ったら、自ら時間を決めて学習に取り組む」という姿が習慣付けられるよう、今一度保護者の皆様のご協力をお願いいたします。(学力向上部主任 徳永 卓)

9月からの取組の重点

○「全員の子どもが、わかる・できる授業」作りを目指します。そのために、学習内容を通して、学び方を学び、ペアやグループで意見を聴き合い、考えを深める等、より深い学びにしていけるよう日々の授業を工夫していきます。

具合的な取組の様子は、授業参観や学級だより等をご覧ください。

思いやりの心

児童・保護者アンケートの結果

4 とてもよくあてはまる 3 まあまああてはまる 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

児童アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
学校生活は楽しいです。	75人	35人	5人	1人
	94.7%		5.3%	
自分から進んであいさつをしています。	78人	33人	3人	2人
	95.3%		4.7%	
時間を守って、生活しています。	75人	35人	4人	1人
	95.2%		4.8%	
自分にはよいところがあります。	65人	45人	6人	0人
	95.2%		4.8%	
友達のよいところを見付けたり、励ましたりしています。	67人	33人	14人	1人
	86.6%		13.4%	

保護者アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
学校は楽しいと感じていると思います。	53人	54人	3人	2人
	95.2%		4.8%	
進んであいさつをしていると思います。	32人	60人	21人	0人
	81.0%		19.0%	
家庭や地域の中で、きまりやマナーを守って生活していると思います。	34人	66人	13人	0人
	88.8%		11.2%	
友達や家族のために、自分が役立っていると感じていると思います。	36人	63人	14人	0人
	87.6%		12.4%	
思いやりと親切な気持ちをもって、行動していると思います。	45人	63人	5人	0人
	95.3%		4.7%	

「学校生活が楽しい」の肯定的評価が、児童・保護者どちらも9割を超えました。家の方々の見守り、お声がけもあり、当校児童が生き生きと生活している様子が伝わってきます。「自分から進んであいさつをしている」「時間を守って生活している」「自分にはよいところがある」は、いずれも児童の肯定的評価が昨年度7月より上がり、9割を超えています。自己肯定感を感じている児童が増えている様子がうかがえます。今後も、より多くの児童が生活を楽しむために、一人一人が自分らしさを発揮して、「自分はよいところがあり、友達や家の人に認めてもらっている」と実感できるような「学習中や普段の生活などで互いの考えやよさを認め合える場」や「係・委員会活動・清掃活動などで自分の仕事を責任持ってやり遂げた経験ができる場」を意識的に設定していきます。また保護者は、「思いやりと親切な気持ちを持って行動している」は9割を超えていますが、児童は9割に届かない現状があります。「いじめ見逃しゼロ県民運動」に参加し「いじめをしない」「いじめを見逃さない」という意識を高め、「相手の立場や気持ちを想像する力」を育む中で、自分や他の人のよさを認め合える関係づくりに取り組んでいきます。ご家庭でも、「自分はこんなよいところがある」「自分が行っている行動で家の人喜んで」「自分をたよりにしてくれている」と実感できるよう、お子さんのがんばりやよさを言葉にして伝え、責任持って続けられる役割を与えるご協力をお願いします。（生活指導部主任 墓前 美樹）

9月からの取組の重点

○「自分や他の人のよさを認め合える関係づくり」を行います。

そのために、「相手の立場や気持ちを想像する力」を育てていきます。

○「自分の役割をやり遂げた達成感」を持たせます。

そのために「目あてを持ち、時間を守って、最後までやり遂げられる役割」に取り組めます。

体力の向上・健康増進

児童・保護者アンケートの結果

4 とてもよくあてはまる 3 まあまああてはまる 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

児童アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
普段、電子ゲームは1時間より少ないです。	45人	34人	15人	22人
	68.0%		32.0%	
目安の時刻までに寝ています。	24人	44人	27人	21人
	58.6%		41.4%	
体を動かして遊んだり運動したりすることが好きです。	88人	8人	10人	10人
	82.7%		17.3%	
【1～2年】好き嫌いなしで食べます。 【3～6年】栄養のバランスに気を付けて食べています。	57人	29人	17人	14人
	73.3%		26.7%	

保護者アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
普段、電子ゲームは1時間より少ないです。	52人	25人	21人	14人
	68.7%		31.3%	
普段、TVは1時間より少ないです。	12人	25人	51人	25人
	31.3%		67.4%	
目安の時刻までに寝ています。	33人	28人	41人	11人
	54.1%		45.9%	
帰宅後に、運動したり体を動かす遊びをしたりしていると思います。	30人	42人	33人	8人
	63.5%		36.5%	
栄養のバランスに気を付けて食べています。	22人	63人	25人	3人
	75.1%		24.9%	

肯定的評価の項目が多かったです。ただ、メディア時間に関する項目、就寝に関する項目についての肯定的評価の割合がやや低いです。就寝時間については、昨年も低かったので、年間を通して改善の余地があると思われます。(健康体育部主任 瀬沼 久美子)

9月からの取組の重点

○10月の持久走記録会に向けて、チャレンジランニング週間を設けます。休み時間に自分のめあてに応じて走り、体力向上を目指します。第2回元気アップ週間に向けて、就寝時間やメディア時間について考える時間を各学級で設けます。

特別支援教育の推進

どの子にもわかる授業を推進する土台として、今年度も小中学校共通のユニバーサルデザインを進め、学級の実態に応じた重点を決めて取り組んでいます。職員の前期評価は肯定的評価が100%でした。(全7学級の評価：かなり意識した4学級・意識した3学級) 具体的な姿を一部紹介します。

(特別支援部主任 長島 裕)

○昨年度に引き続き、UD(ユニバーサルデザイン)の視点を踏まえた教室環境づくりと授業づくりの視点で、日頃の授業を見直ししてきた。(全学級で実施)

○授業構成や教材提示の段階で児童の追求意欲が高まるように授業づくりを工夫している。例えば、課題や説明資料に写真や図などを用い、どの子も一目で分かる工夫をしている。

9月からの取組の重点

○夏の小中合同研修「UDの視点を踏まえた教室環境づくりと授業づくり」で学んだことを生かして、学級の実態に応じた重点項目の見直しを進めていく。

NRT・全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

両川小学校 学力向上部

1. 令和元年度NRTの結果から

(1) 国語・算数の総合偏差値 と 領域別による全国比 ※全国比の平均の値は100。

	領 域				平 均	総合偏差値
国 語	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語 文化と国語の特質	104.6	51.7
	111	106.4	<u>99.6</u>	101.4		
算 数	数と計算	量と測定	図 形	数量関係	102.5	51.7
	109.4	<u>99.4</u>	101	100		

(2) 分析

令和元年度のNRTの結果（2年生～6年生までの平均）では、国語・算数ともには51.7であり、平成30年度（国語53.6 算数50.2）と比較すると、国語は-1.9、算数は+1.5という結果でした。この調査からは、国語・算数ともに全国平均並みという結果が出ています。

しかし、学年ごとの結果に目を向けて見ると、落ちこみが見られる領域が異なっていたり、二極化の傾向が見られたりするなどの状況が見えてきます。

〈課題の見られた領域〉

【国語】

2・5年…「読むこと」
6 年…「書くこと」
4・6年…「伝統的な言語文化」

【算数】

2・4年…「数量関係」
6 年…「図形」
3・5年…「量と測定」

結果を踏まえ、各学年の児童の実態に合わせ、確かな学力の定着に向け、学校全体で継続的な指導を行っていく必要があると考えます。

さらに、高学年の児童の中には未回答・無答の割合が設問の後半に固まっているという傾向が見られました。これは、テストの際の時間配分の問題があると考えられます。合わせて、優先順位をつけること、時間を意識することなど意識付けをはかっていきたいと考えています。

2. 全国学力・学習状況調査の結果から

「全国学力・学習状況調査」は、文部科学省が2007年度から、全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施している調査です。

今年度より両川小の6年生が4月に行った国語と算数の調査結果をお知らせします。昨年度まであった「A問題」「B問題」の二つの問題が一つに統合されました。

【参考資料】

A問題	確実に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかをみる問題
B問題	基礎的・基本的な知識・技能を活用した書く力や読む力、筋道立てて考える力をみる問題



両川小学校6年生の正答率 ～市・県・全国平均との比較～

国 語	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
両川小	18	8/14	57	10.0	3.6
新潟市	6245	9.6/14	69	10.0	3.0
新潟県	17286	9.5/14	68	10.0	3.1
全 国	1028203	8.9/14	63.8	10.0	3.4

算 数	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
両川小	18	7.4/14	53	8.0	2.9
新潟市	6245	9.4/14	67	10.0	2.9
新潟県	17286	9.2/14	66	10.0	3.0
全 国	1028203	9.3/14	66.6	10.0	3.1

平均正答率国語 57% 算数53%という結果でした。児童数が18名と分母が少ない両川小学校では、「学校」としてという捉えよりも、むしろ「個別にどのような力が足りないのか」という視点で、個別の指導や、授業改善に生かしていきたいと考えています。

今年度も6年生は、求められる基礎的・基本的な学力を身に付けるために、授業をはじめ、日々の授業の時間に、「漢字の読み・書き」「計算や図形」などの問題に取り組んできました。また、基礎的・基本的な知識や技能を活用した学力を身に付けるために、的確に内容を読み取る学習や必要な事柄を書く活動にも真摯に打ち込んできました。

この基礎的・基本的な学力を身に付ける取組は、1～6年のすべての学級で日々の授業改善に努めるとともに、日々の授業の時間や家庭学習の時間を活用して行う必要があります。

國語

四
(2)

そこで、

高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、【報告する文章】の
 の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつな
 ぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、
 二文目の「そこで」に続く五文字を書きましよう。なお、読点（、）も文字数に
 含みます。



算数

(4) さらに、かいとさんは、自分が家で水をどのくらい使っているのかが気になり、洗顔を歯みがきで使う水の量を求めるために、下の式を考えました。

両川小正答率

28%

県正答率 53%

全国正答率60%

【かいとさんが考えた式】

$$6 + 0.5 \times 2 = \text{㊦}$$



かいと

洗顔1回に6L使う。
1日1回洗顔。

歯みがき1回に0.5L使う。
1日2回みがく。

【かいとさんが考えた式】の、㊦に入る数を書きましょう。

この設問に対して、約3分の1の児童が、13【誤答】と解答しました。

この誤答は、「 0.5×2 」から計算しなければいけないところを、「 $6 + 0.5$ 」をしてしまっていることによると考えられます。このことから、四則混合の計算における計算の順序の理解が不十分であるという実態が見られました。

また、他には、16【誤答】と答えた児童が数名見られました。これは計算の順序は理解しているものの「 0.5×2 」の解答を10として計算してしまったことによる誤りと考えられます。このように、計算の順序の誤りと、小数の乗法の計算の誤りにより正答率が低下したものと分析します。

これは、学習指導要領における4年生の学習内容である「四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること」という内容項目に則した問題でした。

4年生・5年生で、こうした四則混合の問題を元に、理解を深め、習熟を図ることはもちろんですが、こうした計算の素地となる加法、減法、乗法、除法の学習は低学年からの学習の積み重ねという面が大きいです。思考力だけではなく、今一度、こうした基礎的な計算力をつけていく面からも、全校体制で日々の指導の改善を図っていきたいと考えています。



以上、国語と算数について、誤答の目立つ問題を例にして今後の指導の方向について記しました。

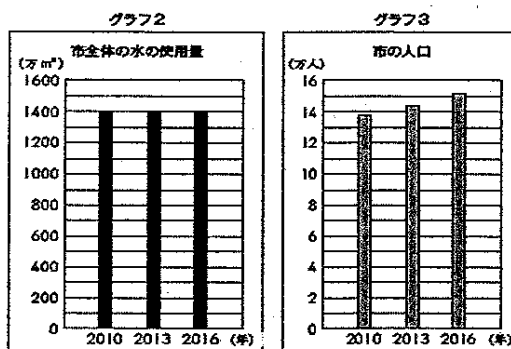
(1)のNRTと(2)の全国学力・学習状況調査の項目でお示したことは、あくまで一例にすぎません。

また、今年度の算数の問題において、次のような問題が出題されていました。

市全体の水の使用量と市の人口の推移を示した二つの棒グラフから一人あたりの水の使用量の増減とその理由を書く問題です。

このように一つのグラフだけでなく複数のグラフの情報を組み合わせて考える力は、社会科・総合・理科など算数以外の各教科においても育てていかなければならない能力であると考えています。

(3) 次に、かいとさんたちは、市全体の水の使用量には、人口が関係しているのではないかと思い、グラフ2とグラフ3を見つけ、2つのグラフをもとに考えています。



かいと 私たちは、水を大切に使用しているといえるのでしょうか。



ゆうか 市全体の水の使用量はわかりますが、1人で水さどのくらい使っているのかはわかりません。



あやの グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

質問紙

【全校の平均値より著しく高いもの】

○自分にはよいところがあると思いますか？

「当てはまる」の割合 両川小61% 県 41% 全国38%

自己肯定感の高さは、友達との関係性が良好であることを示しています。自己肯定感の高い人は前向きにたくましく生活していくことができます。全校集会でのあいさつや縦割り班活動の班長など、少人数を生かして、6年生の全員が何らかのリーダーや代表としての経験をくり返しできるということは、両川小学校ならではの良さだと考えます。これからも、「チャンス・チャレンジ・チェンジ」の合言葉のもと、挑戦する姿を価値付けて自信をもって出来ることを増やしていきたいと考えています。

○学級みんなで話し合って決めたこと等、協力して取り組みうれしかったことはありますか？

「当てはまる」の割合 両川小88% 県 54% 全国45%

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか？

「当てはまる」の割合 両川小86% 県 36% 全国30%

先ほどの「自己肯定感」とも関連することですが、学級の友達との関係が良好であることがベースとなり、自分の意見を安心して話せたり、友達と協力して学習したりということが当たり前になっています。学級の仲間を信頼し、日々の学校生活を送る6年生だからこそ、素晴らしい両川小学校のお手本になっているのだなと感じました。

さらに多くの児童から学校生活の楽しさを感じてもらうために、教職員一同、これからも熱意をもって児童たちと関わっていききたいと思います。

○「家の人(兄弟・姉妹を除く)に学校での出来事について話をしますか？」

「当てはまる」の割合 両川小 70% 県 49% 全国 50%

○「先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか？」

「当てはまる」の割合 両川小 86% 県 51% 全国 43%

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか？」

「当てはまる」の割合 両川小 88% 県 57% 全国 37%

家庭や地域・学校での大人との関わりについてもそれぞれ全国比+20という結果が出ています。児童が安心して、成長していくためには、やはり学校、家庭、地域、で手を取り合って進んでいく必要があると思います。個性豊かで、才能にあふれた両川の子どもたちのため、今後ともよろしくお願い致します。

【全国の平均値よりも低いもの】

▲学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

「1時間以上家庭学習をしている」割合 両川小 56% 県 72% 全国 66%

10分×学年の家庭学習については、いきなり6年生からできるようになるものではなく、下の学年からの積み重ねの部分が大いと考えています。また、中学校へ向けてという観点でも、自分で学習の計画をしたり、苦手な教科の復習をしたりという家庭学習の習慣をつけていることは重要です。学校としても、家庭学習について、学校からの便りなどを通じて発信していきたいと思います。ご家庭でもご協力をお願い致します。

もちろん、すべての教科の学習において、6年間かけて基礎的・基本的な学力を確実に身に付けることが大切になります。

そこで、両川小では今年度も、全職員が研究授業を通して、上記のような調査等で明らかになった課題を共有し、どのようにすれば解決できるか話し合ったり、思考力・判断力を鍛えるために、ペアやグループなど学習形態を工夫し、子どもたち同士の関わり合う場面を増やしたりするなどの授業改善に取り組んでいます。

これからも、私たちは、一致団結して、すべての子どもたちに学ぶ楽しさを実感できるよう努めていきます。子どもたちの学力を高めていくためには、家庭との連携・協力が欠かせません。

ご家庭でも、ぜひ、①「10分×学年」の家庭学習の習慣化と、②望ましい生活習慣(早寝・早起き、テレビやゲームの時間を決めるなど)の定着にご協力ください。よろしくお願いします。

(文責:研究主任 徳永 卓)